

児童発達支援・放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日: 令和3年1月8日

事業所名: こども発達支援センターにじいろ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 ・利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	・H27.7に施設改修をし、スペースを確保している	・スペースが十分に確保されている ・未就学児童の活動人数にもよるが、少し狭いような気もする ・活動を見ていないので分かりません	・個別や集団の療育活動に併せた活動場所を確保している ・契約やモニタリング等で、活動の様子を見てもらう機会をつくる
	2 ・職員の適切な配置	・保育士・児童指導員・看護師・言語聴覚士を常勤で配置するとともに、関係機関等において、臨床心理士・理学療法士・作業療法士の専門職と連携をし、児童及び保護者への支援を行う	・職員の配置数は適切であると思う ・リハビリの先生を増やしてほしい ・職員の職種が分からないため、専門性があるか分からない ・活動を見ていないので分かりません ・専門性があるようには感じられない	・常勤で看護師や言語聴覚士を配置する他、大学の臨床心理センターと連携し、臨床心理士による発達検査や発達相談を行い、子どもの特性理解と適切な療育の提供に努め、子どもの暮らし(家庭、学校・園所)に反映させていく ・毎年玄関の掲示板に職員紹介(写真・名前・職種)を行うが、本年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、通所時の保護者の施設入所をご遠慮いただいたが、にじいろ通信で支援員の紹介を行う ・関係機関等と連携し、理学療法士・作業療法士の配置の充実を図る ・モニタリング等で、活動の様子を見てもらう機会をつくり、内容を説明する
	3 ・本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	・建物の構造上、バリアフリー化できない箇所があるが、その他必要な設備等は整えている	・本日の活動内容がホワイトボードに書かれてあり、子どもたちもパッと見て分かりやすいと思う ・下駄箱に児童の写真が貼ってあり、分かりやすい環境を整えてある ・絵カードを使って提示されていて良かった ・活動を見ていないので分かりません	・事故やヒヤリハットの報告事例を検証し、今後の施設環境整備に努める ・児童が分かりやすいよう絵カード等を使用した環境を引続き行う ・モニタリング等で、活動の様子を見てもらう機会をつくり、内容を説明する
	4 ・清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	・新型コロナウイルス感染症予防と併せ、清掃や環境整備を実施し、清潔な空間を保っている	・雰囲気もいつも明るく、清潔感もあり、安心して預けられる ・玄関の外の手洗い場は使用していないが、掃除をしてほしい ・生活空間は、とても清潔で過ごしやすい環境で、子供をあずけるのに安心します ・活動を見ていないので分かりません	・新型コロナウイルス感染症対策として、感染症の予防及び感染者発生時の消毒等の処置体制を想定したマニュアルを整備する ・普段使用していない玄関の手洗い場の清掃を定期的に行うとともに、日々の衛生管理に今後も努めて行く ・モニタリング等で、活動の様子を見てもらう機会をつくり、内容を説明する
業務改善	1 ・業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	・日々の業務改善については、毎日、ミーティングや職員会議を実施し、また年間の取組については、毎年11月に児童・デイ別々に業務運営等に係る取組の評価を行い、改善及び新規取組についての検討を行っている		・職員一人一人が意見を出し合い、安全安心な業務運営ができるよう、定期的な評価と改善を継続し行う
	2 ・第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	・未実施		・第三者評価を活用したマネジメント研修に参加。今後、外部評価を活用した運営に向け取り組んで行く
	3 ・職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	・職員研修計画を立て、資質向上に取り組む		・職員研修を継続し行う

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供	1 ・アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に合わせ、保護者と現状を話し合って目標を設定(サービス計画)している ・利用者の状態や支援内容に変化があった場合は、適時モニタリングを行い、計画作成の見直しを実施している ・個別・集団療育の計画も組み入れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時のやりとりで、上手に連携かつ文書で分かりやすく作成されていて安心する ・子どもの発達を上げるための計画は、モニタリングで話して分析されていて、分かりやすく丁寧だと思う ・サービス計画には、いつもにじいろ側に、保護者の意見がしっかり交換できていると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが「今、困っていること」にアプローチし、プログラムは帯状で次に繋げて行く ・継続している支援は、連携する関係機関(チーム)で振り返り、また検証を行い、新たな可能性を見つけるきっかけになるよう取り組む
	2 ・子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成			
	3 ・児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載			
	4 ・児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	・実施している	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども楽しみながら、どんどん成長していく姿に、毎回楽しみにしている ・支援はしっかりと行われていて、子どもの発達が成長していると感じる ・一日の予定を本人に合わせて工夫してくださっている ・活動を見ていないので分かりません 	<ul style="list-style-type: none"> ・より、その児童にあった療育を、保護者と一緒に考えて取り組んで行く ・モニタリング等で、活動の様子を見てもらう機会をつくり、内容を説明する
	5 ・チーム全体での活動プログラムの立案	・各分野毎での助言や専門職毎での話し合いを行い、チーム全体のプログラムを立案している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回色々なプログラムを楽しんで取り組んでいて、喜んでいる ・好きなこと、好きな物をうまく使ってくださっている ・毎回課題プリントをさせて頂くようですが、どのようなものをしているのか分からないので、持ち帰らせてほしい ・選択制だといつも同じを選びがちになるため、選択肢について工夫されるとよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や保護者の困りごとを一緒に整理し、利用者には分かる形で連携先を提示し、選んでもらえる支援体制を構築する
	6 ・平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	・平日と長期休暇で、支援内容を変えて実施している		<ul style="list-style-type: none"> ・固定化しないよう工夫を凝らすとともに、特に長期休暇においては、活動内容をより詳細に記入することで、一日の支援内容が分かるよう保護者への連絡ノートの充実を図る
	7 ・活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	・季節の行事や制作活動等を実施している		<ul style="list-style-type: none"> ・にじいろでの活動内容(課題等含む)について、保護者の方に丁寧に説明する
	8 ・支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	・利用者毎の注意事項や支援内容を、確認している		<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じて少しずつプログラムを変えるとともに、にじいろでの遊びや活動が楽しい工夫を取り入れて行く
	9 ・支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	・支援終了後に、保護者から聴取したことや、その日の内容について、情報共有を実施している		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有を継続し行う
	10 ・日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	・支援内容等について記録をし、ミーティングを実施して活動内容の検証・改善を行っている		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有を継続し行う
	11 ・定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	・定期的にモニタリングを実施している		<ul style="list-style-type: none"> ・評価、見直しを行い支援を継続する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	・子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	・計画相談事業所との連携は積極的に行い、必ず参加している		・引き続き計画相談事業所との連携を密にして行く
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) ・地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	・三木市地域自立支援協議会子ども部会に参加する他、重症心身障害児病院との連携支援体制を構築している		・医療的ケア児の受け入れについては、市、教育委員会、学校園所、病院、事業所等の連携が不可欠であることから、市の連絡会等に積極的に参加し、連携支援体制の構築を図る ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修を修了者した看護師を配置し、相談及び支援体制の強化を図る
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) ・子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	・主治医の指示内容に基づき、体調不良時や緊急時の対応に努めている		・主治医や協力医療機関と連携を継続して行く
	4	・児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	・学校、園・所並びに障害福祉サービス事業所等と日頃から連携して情報共有に努めている		・学校、園・所と連携を継続して行く
	5	・放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供			・障害福祉サービス事業所等と連携を継続して行く
	6	・児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	・専門機関で開催の研修には、積極的に参加している		・職員研修を継続し行う
	7	・児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	・未実施	・園とも連絡を取ってくれるみたいで、安心する	・近隣の幼稚園や認定こども園等の児童を招待した「第1回にじいろあそびの文化祭」を、10月に計画していたが、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めないことから事業を中止する。来年度の開催に向け、楽しい交流の場となるようつ計画を推し進める
	8	・事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	・未実施	・スタートしてまだ少しなので、良くわからない	・隣接する特別養護老人ホームや地域住民を招待した「第1回にじいろあそびの文化祭」を、10月に計画していたが、新型コロナウイルス感染症の終息が見込めないことから事業を中止する。来年度の開催に向け、楽しい交流の場となるようつ計画を推し進める

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任等	1	・支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	・保護者等との契約の際に、詳細な説明を行っている	・いつも分かりやすく説明してくれる ・にじいろでの過ごし方を話して下さるので助かる	・支援内容等を保護者に分かりやすく丁寧に説明する
	2	・児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	・サービス利用計画に掲げる支援の内容について、丁寧な説明を心掛けている	・支援内容の説明を聞けて、子どもがしたことや成長している部分が聞けて満足している ・丁寧に親身になって対応して下さり、安心して通所することができている	・支援計画等を保護者に分かりやすく丁寧に説明する
	3	・保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	・児童期のペアレント・トレーニングを実施している	・参加できなかったが、またの機会に参加してみたい ・アドバイス通りにすると子どもの困った行動がマシになった ・言語聴覚士の訓練の様子等を見させていただき、勉強になっている ・就学前のペアレント・トレーニングはあるが、成長し、思春期以降のペアレント・トレーニングがあれば思う	・保護者が早期に開催日を確認できるよう、にじいろ通信で年間計画(日時・内容)を、お知らせをする ・学童期のペアレント・トレーニングについては、実施に向けた内容の検討を進めて行く ・おしゃべり会で、専門家による特別講演会を実施し、気軽に話が聞ける交流の場を提供する
	4	・子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	・実施している	・毎回とても細かく、分かりやすく話をしてくださり、こちらの話も聞いてくださり、ありがたい ・連絡帳の記入部分がいつも足りなくなってしまう。ゆっくりと支援をして下さった後、お話ができない分、にじいろでの様子を詳しく記入して頂ければ…と思う	・迎える時に活動内容やにじいろでの様子をお伝えするとともに、振り返り確認できる内容や特記事項等については、記録するように努める
	5	・保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	・実施している	・初めての利用で、次の面談がいつ頃あるのか聞いていないので分からない ・子どもに関してのアドバイスをもらえたりと優しく丁寧に教えてくださって助かっている	・初めてにじいろを利用される保護者には、相談案内チラシ等の配布以外に、こちらから声掛けをするなどの対応に努めるとともに、にじいろの以外の相談窓口も、保護者が選べるよう分かりやすくお伝えをする
	6	・父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	・利用児童の保護者を対象とした「おしゃべり会」を月1回実施している	・父母の会の活動の支援は、参加していないので分からない ・保護者会に参加したことないので、よくわかりません ・平日は参加できないので、土・日にもそのような会があればよいと思う ・おしゃべり会で、先生方や他の保護者の方の意見、考えを聞かせていただき、勉強になっている	・「父母の会」の活動はありません ・保護者を対象とした「おしゃべり会」が、早期に開催日を確認できるよう、にじいろ通信で年間計画(日時・内容)を、お知らせをするにじいろ通信で「おしゃべり会」の活動内容等を報告する ・現在、平日で開催の「おしゃべり会」について、土・日曜日の開催も含めた検討を行う
	7	・子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	・保護者からの苦情受付は随時実施し、児童発達支援管理責任者又は管理者が対応している	・説明で苦情があった場合の対処があり、良いと思う	・対応が困難な相談等は、意見要望解決委員会を開催し対処する
	8	・障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	・保護者とのコミュニケーションについては、説明内容等を理解してもらえるように配慮している	・担当を分けられている?ように思う。いつも、何でも、配慮して対応して下さっている	・モニタリングや迎える時に活動内容やにじいろでの様子を分かりやすく伝える ・ご不明な点がないか、確認を行い、丁寧な対応に努める
	9	・定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	・毎月、月初に発行するにじいろ通信で、活動概要や事業時予定を周知している	・毎月のお便り嬉しいです。裏面に子ども用の問題が載っているので、楽しんでいる	・にじいろ通信で、情報発信を継続し行う
	10	・個人情報の取扱いに対する十分な対応	・契約時に、秘密保持について説明を行い、併せて保護者から同意書に署名をいただいている	・されていると思う	・職員研修で、個人情報の取扱いについて注意を促すとともに、特に、個人情報を管理保存する機器類等の取扱いについては、必要となるカード・鍵・パスワード等、権限のある管理者等が厳重に管理を行う

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
非常時等の対応	1	・緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	・安全安心マニュアルを整備し、保護者に周知している	・入所の際に丁寧に説明して頂いた ・説明を、しっかりしていただいている	・事故防止対策委員会を毎月開催し、事故防止や事故発生時の対応等を定めたマニュアルを整備するとともに、事故防止の職員研修を開催し、再発防止に努める ・連絡調整会議や運営会議を毎月開催し、安全管理設備の定期点検や防犯カメラの設置、不審者対策等を定めたマニュアルを整備するとともに、警察署員を講師に招いた職員防犯研修を開催し、児童や職員の安全確保に努める ・感染症防止対策委員会を毎月開催し、学校の休校や児童欠席の状況把握、職員の健康管理、衛生用品の管理、感染症予防の職員研修、国県市通知の感染症に係る情報の共有及び感染症予防の対策を講じる ・新型コロナウイルス感染症の予防や消毒の処置など、具体的な方法を定めたにじいろ感染対策マニュアルを整備する ・保護者にも新型コロナウイルス感染症の予防を呼び掛け、利用児童・保護者・来所者・事業所職員が一丸となって感染症予防に取り組む
	2	・非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	・年2回の避難訓練を実施している	・説明を、しっかりしていただいている ・子どもたちも参加する訓練も定期的に行われる必要があると思う	・避難訓練の内容を保護者に通知するとともに、災害等で通信連絡網が遮断した場合の児童の引き渡しについて、引き続き周知して行く
	3	・虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	・虐待防止委員会を開催し、職員研修を実施している		・身体拘束虐待防止委員会を3か月に1回開催し、身体拘束止や虐待防止等を定めたマニュアルを整備するとともに、児童虐待・障害者虐待・高齢者虐待、懲戒及び体罰、虐待事例等の職員研修を開催し、虐待防止に努める
	4	・やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	・車椅子ベルト等の使用については支援計画への記載、説明書の署名など経て身体拘束委員会を開催し、必要最小限の拘束に努めている		・利用児童の身体拘束禁止に向けた取組の評価を身体拘束虐待防止委員会で確認し、改善や継続内容を次の支援計画案に反映させ、保護者に安全安心な療育支援の取組を丁寧に説明する ・身体拘束廃止に向けた具体的な実践事例の職員研修を引き続き実施して行く
	5	・食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	・保護者からの聴取、医師の指示書に基づき、アレルギーの有無の確認を行っている		・児童利用調整会議を開催し、児童に係る基本情報を把握する
	6	・ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	・事故防止対策委員会を開催し、事故の検証、共有及び事例研修を実施している		・事故防止対策委員会を毎月開催し、事故防止や事故発生時の対応等を定めたマニュアルを整備するとともに、事故防止の職員研修を開催し、再発防止に努める